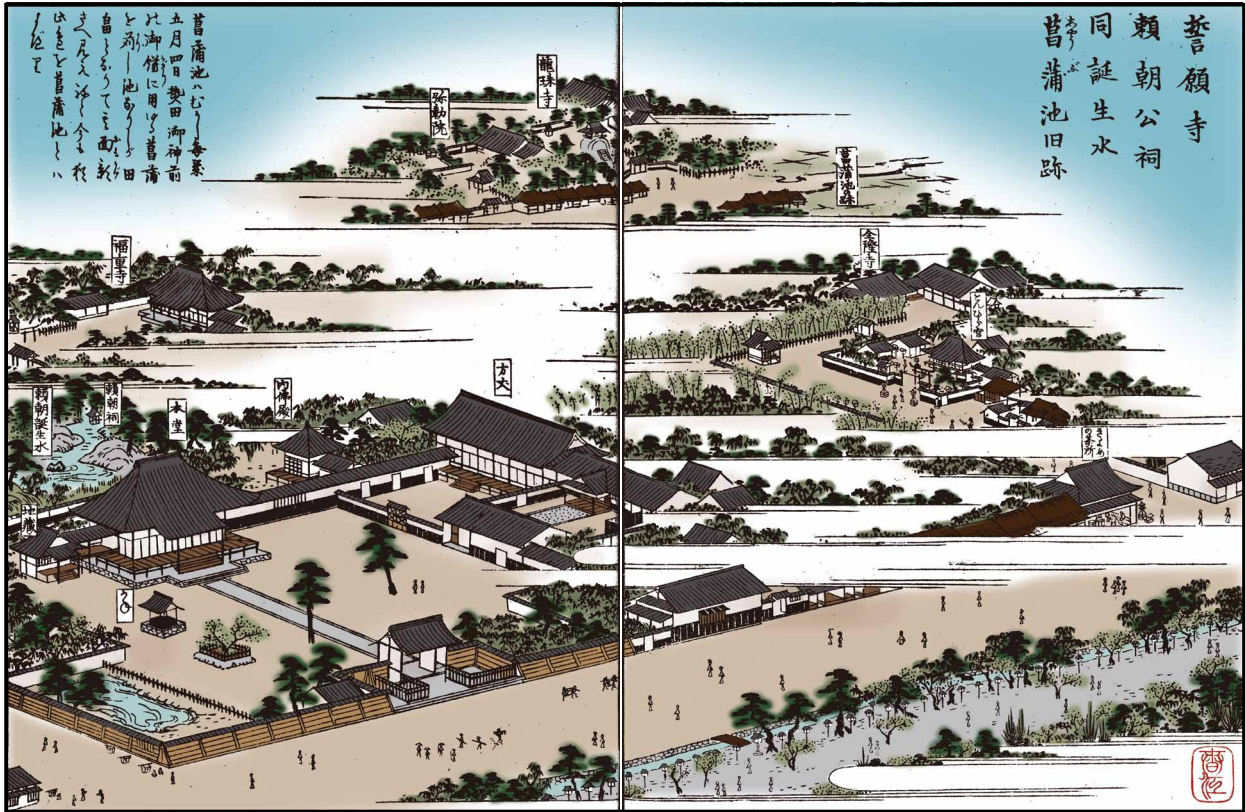


今昔

武家社会につながる熱田の地



※現在地の住所と現況写真の撮影地は、資料に基づき推定したものです。
※左の絵は原本を一部加工、着色しています。

この絵は、尾張名所図会に記載されている江戸時代の誓願寺の様子です。誓願寺は、西山浄土宗に属し1529年日秀善光尼により開山されました。日秀善光尼は、1570年に上人号を勅賜され熱田上人と呼ばれ、信州善光寺の大本願寺上人、伊勢慶光院の伊勢上人とともに「天下の三尼上人」の一人といわれていました。1590年には豊臣秀吉の母大政所が参詣したと伝えられています。

1600年火災のため伽藍什物をこごとく焼失しましたが、豊臣秀頼の命で再建されました。後には尾張藩が門などを修理し、寺領も寄進され、代々の尾張藩主から信仰をえていました。

この寺は、戦災で堂宇とともに寺宝も焼失しましたが、その後、再建されています。

また、誓願寺あたり一帯は、平安末期には熱田大宮司家*の下屋敷があったと推定されています。熱田大宮司藤原季範の娘由良御前が源義朝に嫁ぎ、実家で出産したといわれ、誕生したのが源頼朝です。邸内にあった池の水を汲んで、頼朝の産湯に用いたといわれ、現在も境内に産湯の池が残されています。

源頼朝の生誕の地については、瑞穂区にある龍泉寺の門前に産湯の井と伝えられている「亀井水」があり、この他に京都という説もあり定かではありませんが、尾張の地が武家政権の確立時にも大きなかわりがあったことが想像されます。

*熱田大宮司は、尾張家が代々勤めていたが、11世紀末に尾張員職の娘が藤原季兼と婚姻し生まれた藤原姓の子を大宮司にし、尾張家は大宮司を補佐することになった。



誓願寺



頼朝産湯の池

関連資料 ※ ()内はまちづくりライブラリーの請求記号です。

「尾張名所図会前編四」岡田啓／著 愛知県郷土資料刊行会(Sc-ア)

「名古屋史第二巻」新修名古屋市史編纂委員会／編 名古屋市(Sc-ア)

「熱田区誌」熱田区制五十周年記念誌編集委員会 熱田区制五十周年記念事業実行委員会(2B21-87)

「熱田 歴史散歩」日下英之／著 風媒社(Sc-ヒ)

「史跡あつた」熱田研究よもぎの会／著 発行泰文堂(Sc-ア)